

FOR PERSONAL COMPUTER BEGINNERS

はじめる パソコン トラブル解決編

パソコンなんでも相談所 著
Windows Me版



別冊

付録付き

●これは便利!

あると便利なツールの紹介

●これだけはおさえておきたい

基本用語集

●操作をすばやく

ショートカットキー一覽

●そうだったのか!なるほど

拡張子一覽

SE
SHOEISHA

本書内容に関するお問い合わせについて

このたびは翔泳社の書籍をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。弊社では、読者の皆様からのお問い合わせに適切に対応させていただくため、以下のガイドラインへのご協力をお願い致しております。下記項目をお読みいただき、手順に従ってお問い合わせください。

●ご質問される前に

弊社Webサイトの「Q&Aコーナー」(<http://www.shoeisha.com/info/help.asp>)をご参照ください。これまで受けたご質問への回答(FAQ)や、的確なご質問方法に関する情報を掲示しています。

●ご質問方法

弊社Webサイトの専用フォームサイト(<http://www.shoeisha.com/book/qa/>)をご利用ください。記載漏れや独自の用紙等によるご質問、お電話や電子メールによるお問い合わせ、本書にはさみ込まれたアンケートはがきに記入されたご質問等は、お受けしていません。

※質問専用シートのお取り寄せについて

Webサイトにアクセスする手段をお持ちでない方は、ご氏名、ご送付先(ご住所/郵便番号/電話番号またはFAX番号/電子メールアドレス)および「質問専用シート送付希望」と明記のうえ、電子メール(qaform@shoeisha.com)、FAX、郵便(80円切手をご同封願います)のいずれかにて"編集部読者サポート係"までお申し込みください。お申し込みされた手段によって、折り返し質問シートをお送りいたします。シートに必要事項を漏れなく記入し、"編集部読者サポート係"までFAXまたは郵便にてご返送ください。

●ご回答について

ご回答は、ご質問いただいた手段によってご返事申し上げます。ご質問の内容によっては、回答に数日ないしはそれ以上の期間を要する場合があります。

●ご質問に際してのご注意

本書の対象を越えるもの、記述個所を特定されないもの、また読者固有の環境に起因するご質問等にはお答えできませんので、予めご了承ください。

●郵便物送付先およびFAX番号

送付先住所：〒160-0006 東京都新宿区舟町5

FAX番号：03-5362-3806

宛先：(株)翔泳社出版局 編集部読者サポート係

本書に記載されたURL等は予告なく変更される場合があります。

本書の出版にあたっては正確な記述につとめましたが、著者や出版社などのいずれも、本書の内容に対してなんらかの保証をするものではなく、内容やサンプルに基づくいかなる運用結果に関してもいっさいの責任を負いません。

Microsoft®、Windows®は米国Microsoft® Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名はすべて各社の登録商標または商標です。

商標、登録商標の記載に際して、本書では解説文中でのみ初出以降カタカナ表記を使用しています。ご了承ください。

はじめに

パソコンは情報家電と呼ばれ、家電の一種という扱いになっています。ところが、テレビや冷蔵庫と違って、単に電源を入れればすぐに使えるというものではありません。複雑な本体に加え、数々の周辺機器といったハードウェアと、オペレーティングシステム、さらに多くのアプリケーションなどのソフトウェア。これらが、うまくかみ合って、はじめにパソコンが正常に動作します。

そのため、他の家電に比べてトラブルが多く、初心者の人々にとっては悩みの種になっています。ハードウェアやソフトウェアには相性もあり、ある人の環境では問題なく動作するのにも、またある人の環境ではまったく動かないということすらあります。

この本では、初心者の方々が遭遇しやすいトラブルとその解決方法をまとめています。しかし、この本だけですべてが紹介できるわけではありません。また、現在知られていない新たなトラブルが、今後生まれてくるでしょう。そのときに必要なのは、情報収集力です。本を読むだけで満足せずに、インターネットを使って情報を集め、また自分自身で試すことで、トラブルに立ち向かってください。

多くの人々の協力によって、この本が完成しました。原稿の執筆を手伝ってくれた、せきぐちくみこさん、なかなか出来上がらない原稿を辛抱強く待ってくれた翔泳社の青田恵さんをはじめ、すべての関係者に深く感謝します。

① はじめるシリーズの特徴

- ① 理解を助けるイラストが豊富。見ればそのままわかるのが「はじめるシリーズ」です。
- ② 初心者向けの基本ページ（無地）とレベルアップページ（色地）の2段階構成になっています。
- ③ 専門的な用語を極力避け、アルファベットもカタカナ表記にしてわかりやすさを優先しています。
- ④ 用語集と便利なツールの紹介を別冊で用意。手元に置いていつでもすぐに開くことができます。

② 本書の読み方

《パソコンを使用するのがはじめての方へ》

本書は、はじめてパソコンを使われる方々が遭遇しやすいトラブルとその解決方法をまとめています。理解しやすいように、イラストと画面を豊富に掲載した内容になっています。はじめから順を追って読んでください。

《必要な操作だけを習得したい方へ》

本書はすべて読み切り形式になっています。操作手順を先に実行して、後から解説を読んでもかまいません。自由にやりたい操作や解決したいトラブルのページから読んでください。

57

操作の見出し
具体的な操作の見出しが右ページの端に配置されています。

「ウェブページに問題がある」「ランタイムエラー」が表示される。
● スクリプトを使っているページでエラーが発生

● ウェブページに問題がある？

「Webページに問題があるため、正しく表示または機能しなくなる可能性があります」というダイアログボックスが表示される場合があります。このメッセージは、ウェブページで使われている「スクリプト」にエラーがあるときに表示されます。

スクリプトとは、プログラム的一种で、ウェブページを記述する言語（HTML: Hyper Text Markup Language）だけでは実現できない表現や機能を補うために使われています。メッセージにあるように、部分的に正しく表示されなかった

り、一部の機能が使えなくなる場合があります。さほど大きな問題ではありません。「OK」をクリックして、ダイアログを閉じましょう。

スクリプトのエラーがあるページでは、ステータスバーの左に警告アイコンが表示されます。警告アイコンをダブルクリックすると、このメッセージが表示することができます。

なお、どうしても機能を使えないと困るようであれば、ウェブページの作者にインターネットメールで報告して直してもらうという手もあります。

● ランタイムエラーが発生しました

エクセルの「スクリプト エディタ」や「Visual Basic」などの「ジュニアベリック」などがインストールされているパソコンでは、前出のダイアログが、「ランタイムエラーが発生しました」というメッセージで表示される場合があります。このメッセージが表示されたときは、「いいえ」を選びます。「はい」を選んだ場合は、表示されたウィンドウの右上隅にある「X」ボタンでウィンドウを閉じてください。

スクリプトエラー

スクリプトのエラーページが表示できないときも、図キを押して、ページを新しくして、正しく表示されることがあります。また、一度の閲覧のページに移動してから、リンクをたたくページを移動することで、正しく表示されることもあります。スクリプトは、ブラウザの種類やバージョンによって、表示できないものもあります。古いバージョンのブラウザを使っている場合は、最新バージョンのブラウザにアップデートすることで、エラーが表示されなくなることもあります。

概略説明

この操作に関する総合的な知識を得られるように、操作の意味や理由も含めて記述しています。

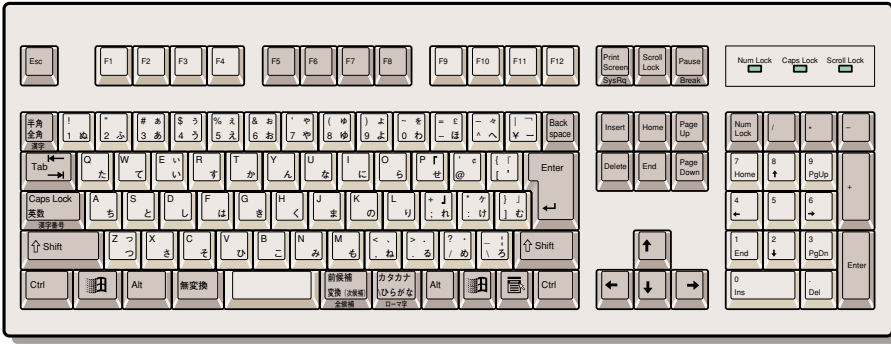
ヒント

このトピックの関連知識など、ちょっと便利な機能を主に解説しています。

4 キーボードの表記

キーボードはいわゆる互換機用の109キーボードの表記を標準としています。

4 109キーボードの例



5 キーの押さえ方

キーボードの基本的な押さえ方は左図のとおりです。
また、一部の109キーボードの表記には、実際の動作と異なるキーがいくつか存在するので注意が必要です。

5 キーの文字と入力される文字の関係と表記の異なるキー

~ を
0 わ

→

~ を
^ へ

☐ を入力するには
シフト+0ではなく
シフト+Aを押す。

~ ろ

→

¥

☐キーを押すと実際には¥記号が入力される

通常（ローマ字入力）時に、☐キーと同時に押すと入力できる文字

かな入力時に、☐キーと同時に押すと入力できる文字

通常（ローマ字入力）時に、普通に押すと入力できる文字

かな入力時に、普通に押すと入力できる文字

6 本書の表記

本書では「Internet Explorer」などの名称は「インターネットエクスプローラ」と表記しています。
誰にでもわかりやすいように、英語の呼称「Windows」などは「ウィンドウズ」とカタカナで表記しています。

・ 「CTRL」キーなどの表記はすべて「コントロール」というようにカタカナになっています（左図参照）。
・ メニューやダイアログの項目は「記号で囲んでいます」。
・ 本文中では、登録商標や商標の明記は特にしていません。

6 特殊キーのカタカナ表記対応表

→ エスケープ	→ ホーム
→ タブ	→ エンド
→ コントロール	→ ページアップ
→ キャップロック	→ ページダウン
→ シフト	→ エンター
→ バックスペース	→ プリントスクリーン
→ オルト	→ スクロールロック
→ インサート	→ ポーズ
→ デリート	→ ナムロック

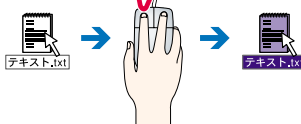
⑦ マウスの使い方

マウスの基本的な使い方をおさらいしておきましょう。

1 左ボタンを1回押して、すぐに離します。これを「クリック」と呼びます。最も基本的な操作です。



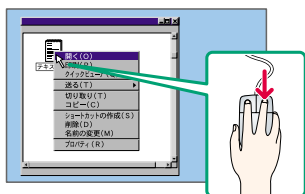
主に何かを選択するとき
に使用します



3 右ボタンを1回押して、離します。これを「右クリック」と呼びます。



状況に応じた特別
なメニューを
表示します



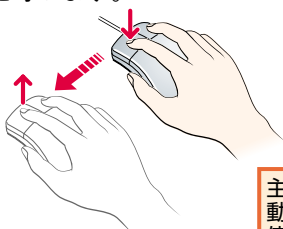
2 クリックの動作をすばやく2回繰り返します。これを「ダブルクリック」と呼びます。



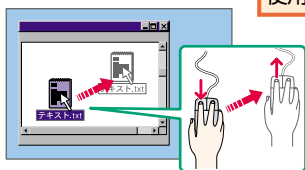
プログラムを起
動したりする
ときに使用します



4 左ボタンを押したままマウスを引きます。目的の位置でボタンを離します。これを「ドラッグ」と呼びます。



主に何かを移
動するときに
使用します



⑧ ショートカットキーの押さえ方

コントロール + T という表記がある場合は…



⑧ ショートカットキー

「ショートカットキー」とは、同時に2つのキーの組み合わせを押すことで、メニューをマウスで選ぶ操作を代用することです。「コントロール + T」なら「コントロール」と「T」のキーを同時に押すということを意味しています。「コントロール」キーを先に押したままの状態では、次に「T」キーを押してもかまいません。

はじめに	iii
本書を使い始める前に	iv

第1章 パソコン本体

●この章で解決できること	2
①パソコンが立ち上がらない	4
②起動時に青い画面になってしまう	8
③CD-ROMドライブからCD-ROMが取り出せない	10
④メモリの容量が足りない	12
⑤ハードディスクの容量が足りない	16
⑥休止状態が使えない	20
⑦勝手に電源が切れる	22
⑧それでも動かない	24

第2章 周辺機器

●この章で解決できること	28
⑨新しいハードウェアが接続できない	30
⑩文字が入力できない	34
⑪マウスが使えない	38
⑫ディスプレイの中央に画面が表示されない	40
⑬フロッピーディスクに書き込めない	42

14	キーボードのキーの使いみちがわからない	●キーボードのキーの意味	44
1	ファイルの断片化を解消する	●デフラグ	48

第3章

ウィンドウズ		49	
●	この章で解決できること	50	
15	キーボードもマウスも反応しない	●ウィンドウズがフリーズしたとき	52
16	「スタート」メニューにアプリケーションが見つからない	●アプリケーションの起動方法	54
17	いろいろなメッセージの対処方法がわからない	●ウィンドウズからの通知	58
18	ハードディスクの空き容量が少ない	●空き容量を増やす	60
19	メモリの容量が足りない	●メモリの空き容量を増やす	62
20	アイコン・フォントが正常に表示されない	●アイコンキャッシュ・フォントキャッシュ	66
21	CD-ROMを入れても自動的にメニューが立ち上がらない	●CD-ROMの自動実行	68
22	音楽CDを入れても音が出ない	●パソコンで音楽を聴こう	70
23	日本語が入力できない	●IMEの使い方	72
24	ヘルプの使い方がわからない	●ヘルプの使い方	74
2	他のOSを使いたい	●ウィンドウズMe以外のオペレーティングシステム	78

第4章

ファイル・フォルダ		79	
●	この章で解決できること	80	
25	ファイルが見つからない	●ファイルの検索	82
26	ファイルが開けない	●ファイルの関連付け	84
27	拡張子が見えない	●隠されている拡張子	88
28	DLLが見つからない	●アプリケーション実行のために必要なファイル	90
29	ファイルが捨てられない	●捨てられないファイルとは	92
30	ファイルが行方不明	●ファイルの整理	94

31	ファイルの名前が変更できない	●使ってはいけない文字、単語	96
32	削除時に確認メッセージが表示される	●ごみ箱の設定	98
3	圧縮フォルダを使ってみましょう	●圧縮フォルダの利用	100

第5章 デスクトップ

●	この章で解決できること	104	
33	ウィンドウが見つかからない	●ウィンドウの移動と整理	106
34	タスクバーが見つかからない	●「自動的に隠す」オプション、タスクバーの幅の確認	108
35	デスクトップ上のアイコンが見つかからない	●デスクトップの整理	110
36	画面の文字が見づらい	●画面のデザイン	112
37	壁紙を変更したい	●壁紙の設定	116
38	クイック起動バーのアイコンがなくなった	●クイック起動バーのアイコン	118
39	他の人に使われたくない	●ウィンドウズのセキュリティ	122
4	複数のアプリケーションを同時に使う	●ウィンドウの切り替え	124

第6章 インターネット接続

●	この章で解決できること	126	
40	インターネットを利用する手順がわからない	●インターネットに必要なもの	128
41	インターネットの設定がわからない	●インターネット接続ウィザード	130
42	インターネットにつながらない	●接続の設定を確認する	134
43	接続エラーが表示されて接続できない	●電話回線の接続状態や各種設定の確認	136
44	回線が切れてしまう	●キャッチホンサービスの利用	144
45	パスワードが保存できない	●パスワードの保存	146
46	電話代の請求がびっくりするような額に！	●ダイヤルアップ先の確認	150
5	自動的にインターネットに接続するには？	●「自動的に接続する」チェックボックス	154

第7章

インターネット・ウェブ

- 6 インターネット 익스프레스ローラを終了したときに
切断確認メッセージを表示する、しない。●自動切断機能……………156
- 7 1台のパソコンで複数のプロバイダを使い分けたい●複数の接続先の作成……………160
- この章で解決できること……………164
- 47 URLを入力中に別のURLが自動的に入ってしまうのを
止めたい●オートコンプリート機能……………166
- 48 URLを入力する場所が消えた●アドレスバーの表示……………168
- 49 サイトを見ている最中に回線が切れてしまう●アイドル時間の調整……………170
- 50 ウェブページが表示されない●読み込みを中止して更新……………172
- 51 ウェブページが見つからない●URLの確認……………178
- 52 表示されている字が小さくて読めない●文字サイズの変更……………180
- 53 ウェブページの画像が表示されない●画像の表示方法……………182
- 54 以前はアクセスできていたウェブページが表示できない●上の階層のページを探す……………184
- 55 ファイルがダウンロードできない。
ダウンロードしたファイルが開けない●ファイルの保存、ダウンロードしたファイルの解凍……………186
- 56 開いたページが読めない●エンコードの修正……………188
- 57 「ウェブページに問題がある」や
「ランタイムエラー」が表示される●スクリプトを使っているページでエラーが発生……………190
- 58 表示された確認ダイアログボックスに
どのように対処してよいかわからない●セキュリティに関する重要なメッセージ……………192
- 59 検索したウェブサイトが見つからない●ほかの検索サイトを使って検索……………198
- 60 ウェブページがイメージどおりに印刷できない●印刷の設定……………204
- 61 「お気に入り」が使いづらい●「お気に入り」の整理……………206
- 8 他のブラウザを使いたい●ネットスケープナビゲータの使用……………210

●この章で解決できること 212

62 メールするには、どうすればいいのかわからない ●メールアドレスの取得 214

63 メールが届かない ●相手先のメールアドレスの確認 218

64 メールを受信できない、送信できない ●設定の再確認 220

65 文字化けでメールが読めない ●エンコード 224

66 メールを送信時間がおかしい ●パソコンの日付と時刻の修正 226

67 「連絡先」ウィンドウが見つからない ●ウィンドウのレイアウトの確認 228

9 これだけはやっておこう ●メール送信の形式と署名 230

10 アウトルックエクスプレス以外のメーラーを使う ●その他のメーラー 232

11 コンピュータウイルスってなに? ●コンピュータウイルス 234

索引

索引-1 211

第1章

how to start
the PC
Chapter 1

パソコン本体

パソコンは情報家電といわれますが、テレビや冷蔵庫と違い、電源を入れたらすぐに使えるわけではありません。複雑でデリケートな製品であるがために、扱いを間違えると、正しく起動しなくなったり、起動時に問題が生じることがあります。この章では、パソコン本体に関するトラブルの対処方法を紹介します。

この章の内容

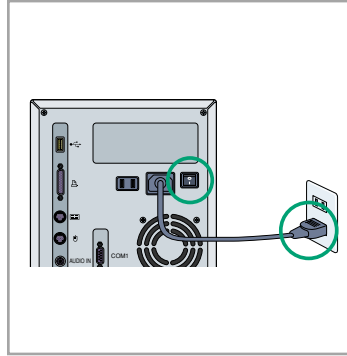
●この章で解決できること	2
①パソコンが立ち上がらない	4
②起動時に青い画面になってしまふ	8
③CD-ROMドライブから	
CD-ROMが取り出せない	10
④メモリの容量が足りない	12
⑤ハードディスクの容量が足りない	16
⑥休止状態が使えない	20
⑦勝手に電源が切れる	22
⑧それでも動かない	24



この章で解決できるトラブル

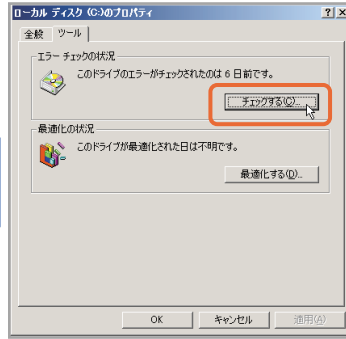
1

パソコンが立ち上がり



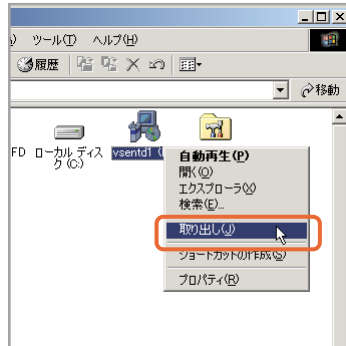
2

起動時に青い画面にな



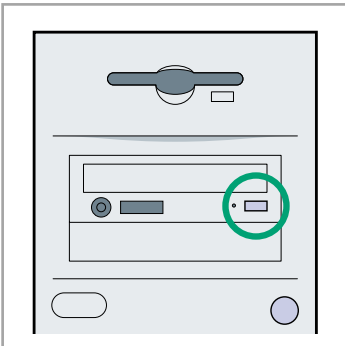
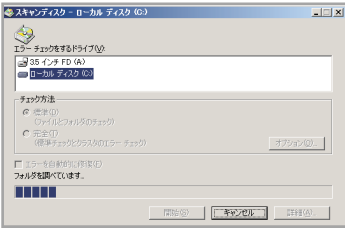
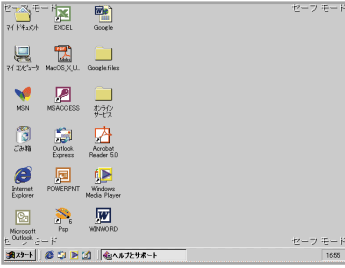
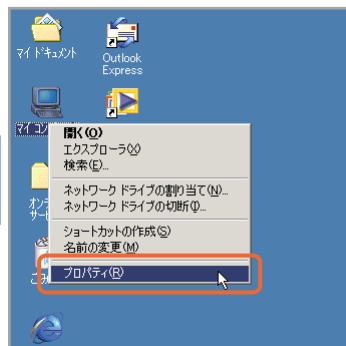
3

CD-ROMが

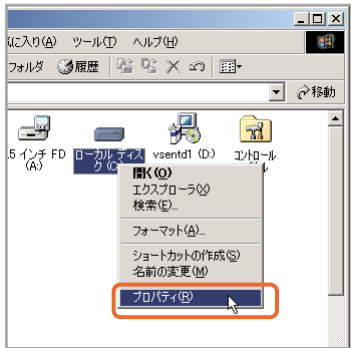
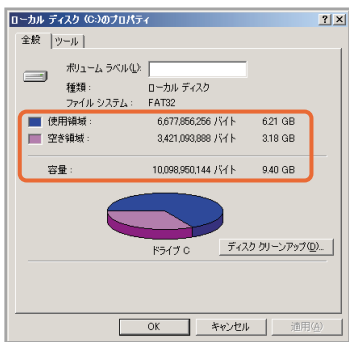


4

メモリの容量が



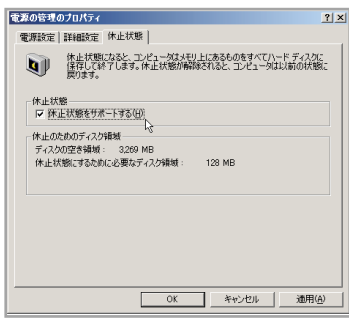
5 ハードディスクの容量が足りない



● **セーフモード**
 トラブルの原因を確かめるため、最低限必要なハードウェア情報だけでウィンドウズを起動する安全なモードです。

● **起動ディスク**
 ハードディスクの情報を使わず

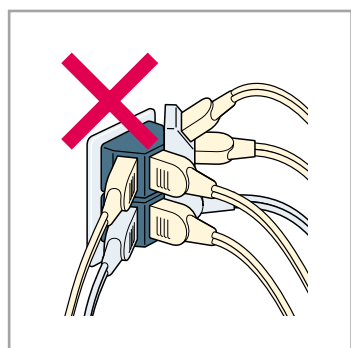
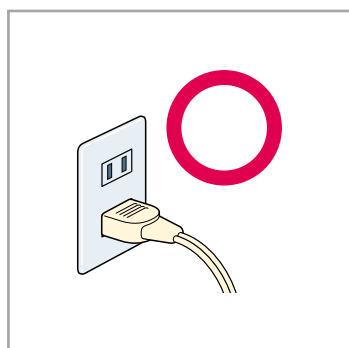
6 休止状態が使えない



にコンピュータを起動するための情報が書き込まれたフロッピーディスクです。トラブルが発生する前にあらかじめ作成しておくようにしましょう。

● **レジストリ**
 ウィンドウズの設定などに関する

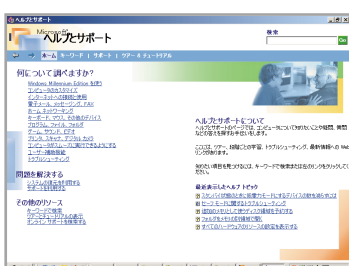
7 勝手に電源が切れる



るあらゆる情報を管理するデータベースです。

● **スキャンディスク**
 ハードディスクに異常がないかを調べるプログラムです。正常な方法でウィンドウズを終了しないと、次にウィンドウズを起動する

8 それでも動かない



ときに自動的に実行されます。

● **休止状態**
 パソコンを使用していないときに、ディスプレイやハードディスクの電源を自動的に切断し、電気を節約するモードのことです。

パソコンが立ち上がらない。 状態の確認

●パソコン本体の電源ランプが点いていない

パソコンの電源ケーブルが、きちんとコンセントに差し込まれているか確認します。パソコンの背面に、主電源のスイッチがある機種については、そのスイッチがオフになっていないかどうか確認しましょう。

コンセントがきちんと差し込まれていて、主電源もオンになっているのに電源ランプが点かないときは、パソコンの電源部分に故障している可能性があります。そのときは、パソコンを購入した販売店やメーカーに相談しましょう。

●パソコン本体の電源ランプは点いているが、ディスプレイに何も表示されない

ディスプレイの電源が入っているか確認します。電源が入っていないときは、パソコンの電源ランプが点いていないときと同様に、コンセントを調べます。ディスプレイの電源が入っているのに、何も表示されないときは、パソコンとディスプレイをつなぐケーブルが、きちんと接続されているかどうか確認しましょう。

●黒い画面によくわからないメッセージが表示されている

「Invalid system disk」というメッセージが表示されている



ときは、フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが挿入されていないか確認します。挿入されていたら、フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押します。機種によっては、電源スイッチを入れ直します。

●「ウィンドウズを起動していません」の画面で止まっている

ウィンドウズの起動中に、何らかの問題が発生しています。

セーフ(Safe)モードと呼ばれる安全なモードで起動して、問題の解決を試みます。

●セーフモードでも立ち上がらない

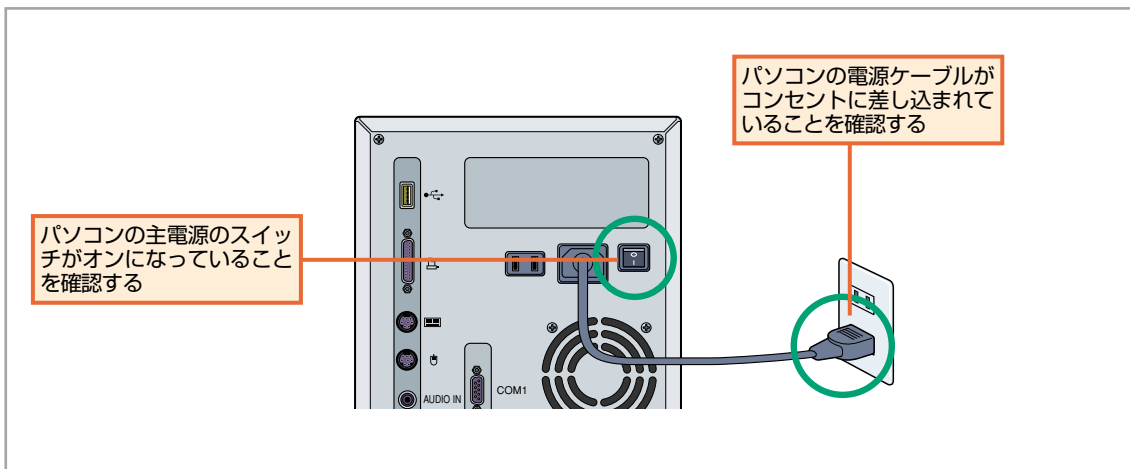
セーフモードでも立ち上がらず、ウィンドウズの起動中にエラーが発生してしまうときは、レジストリの異常など重大な問題が発生している可能性があります。このようなときは、起動ディスクを使ってウィンドウズを立ち上げ、レジストリの復元を試みます。

起動ディスクは、ウィンドウズのインストール時に作成するものですが、インストールが終わったあとでも、以下の手順で作成できます。「スタート」メ

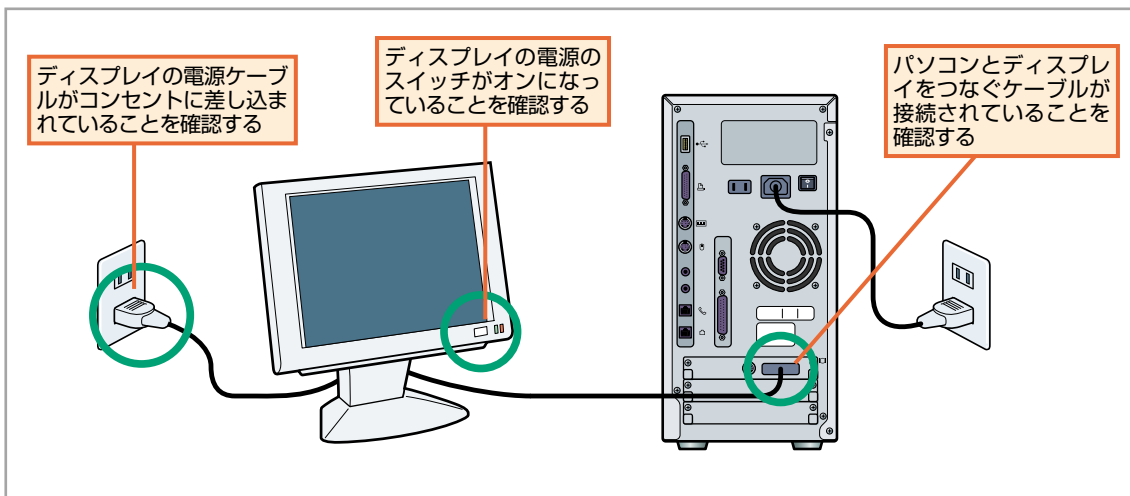
ニュー↓「設定」↓「コントロール パネル」を順に選択し、「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックして開きます。「起動ディスク」タブで、「ディスクの作成」ボタンをクリックします。フロッピーディスクが1枚必要になるので、あらかじめ用意しておきましょう。

起動ディスクをフロッピードライブに挿入して、パソコンの電源を入れます。フロッピーディスクが読み込まれ、起動方法の選択画面になります。「Hard」を選択すると、起動ディスクでの立ち上げに関する情報が確認できますので、ひと通り目を通しておきましょう。ウィルスの問題や、ハードウェアの問題でないときは、レジストリの復元を行います。

☞ 電源ランプがついていない



☞ 電源ランプはついているが、ディスプレイに何も表示されない

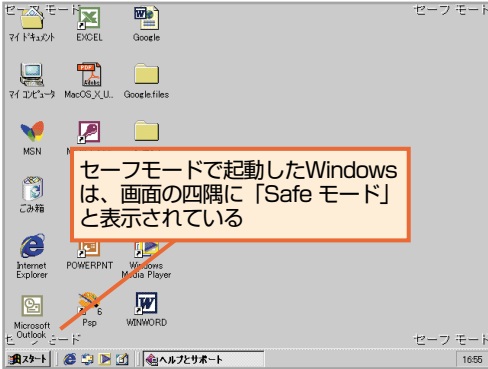


👉 セーフモードで起動する

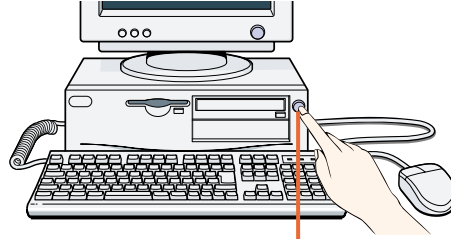
01

●状態の確認
パソコンが立ち上がらない。

4 しばらくするとWindowsがセーフモードで起動します。



1 一度電源を落とし、再度電源を入れます。



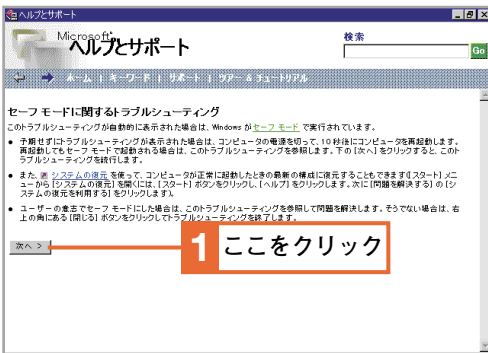
1 電源を入れる

2 最初の黒い画面で(コントロール)キーを押し続けます。機種によっては、(F8)キーを押すものもあります。

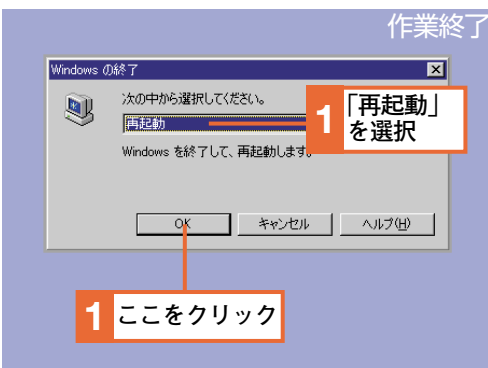


前のページから

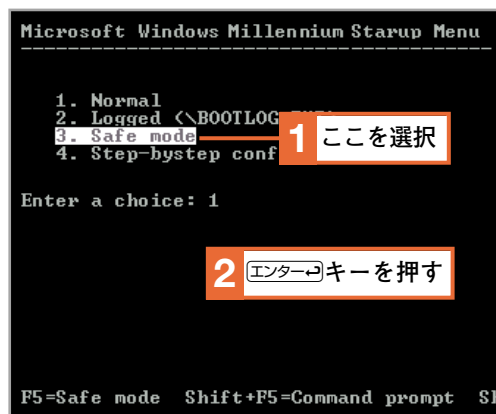
5 自動的にヘルプが起動します。[次へ]ボタンをクリックして、問題を解決します。



6 問題を解決したら、[スタート]メニューから[Windowsの終了]を選び、[再起動]を選びます。

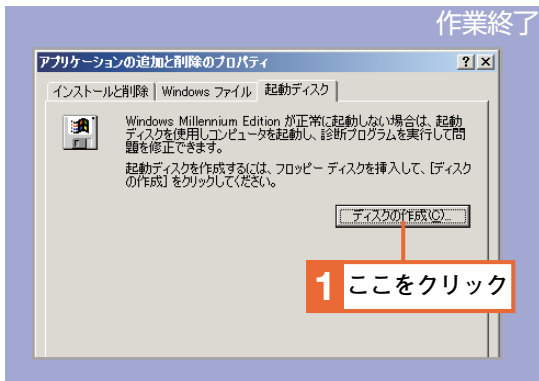


3 メニューが表示されるので、矢印キー(↓)を使って「3.Safe Mode」を選んで(エンター)キーを押します。

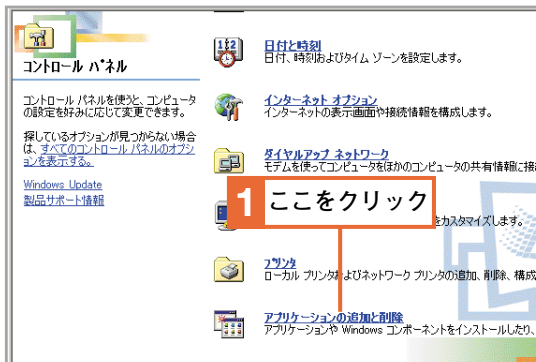


👉 起動ディスクを作成する

2 [起動ディスク] タブで、[ディスクの作成] ボタンをクリックします。

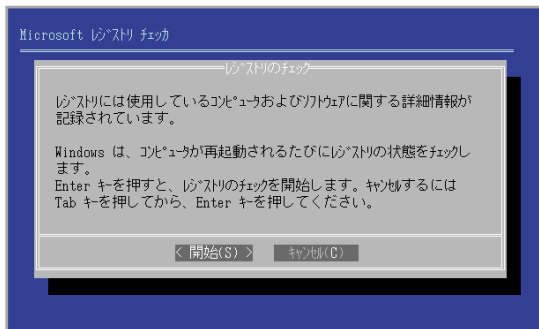


1 [スタート] メニュー → [設定] → [コントロール パネル] を順に選択し、[アプリケーションの追加と削除] アイコンをクリックして開きます。

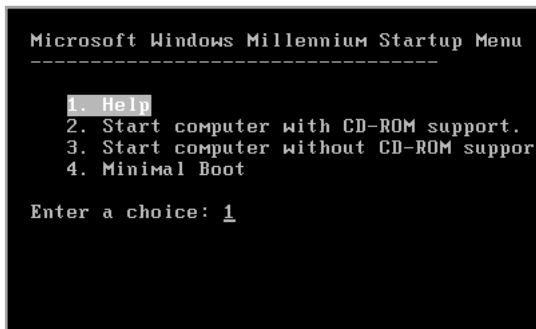


👉 起動ディスクを使って起動する

3 レジストリの復元



1 起動ディスクでの立ち上げ画面



4 過去に保存したレジストリを復元



2 起動ディスクのヘルプ画面



2

起動時に青い画面になってしまつてしまふ。 ●スキヤンディスクというアプリケーション

●なぜ、スキヤンディスクが実行されるのか

ウィンドウズを正常な方法で終了しなかつたとき、ハードディスクに異常が発生することがあります。このため、ウィンドウズは異常終了を検知して、次にウィンドウズを起動したときにあらかじめハードディスクに異常がないかどうかを確認します。この作業を行うのが、スキヤンディスクです。

●不良セクタとは何か

セクタとは、ハードディスクの記憶単位のひとつです。ハードディスクに保存したファイルは、セクタ上に書き込まれることとなります。ハードディスク

に傷がつくなどの原因で書き込みができないセクタ、すなわち不良セクタが発生します。傷がついてしまうと、そのセクタは利用できません。スキヤンディスクでは、不良セクタを利用しないようにマスキングします。

不良セクタができる原因には、ハードディスクの劣化もありますが、ほとんどの場合、ハードディスクが動作しているときに電源を切つたりしてしまうことです。パソコンがフリーズしたときなど、電源を強制的に切るときは、ハードディスクの電源ランプがついていないことを確認してからにしましょう。なお、エラーチェックを何度繰り返しても不良セクタがなく

ならないようなときは、ハードディスクの寿命が近づいていることを示しています。ハードディスクの取替えを検討したほうがよいでしょう。

●スキヤンディスクを停止するには

ハードディスクの容量が大きいほど、スキヤンディスクの実行時間は長くなります。ときには、スキヤンディスクをキャンセルしたいこともあるでしょう。その場合は、**[Alt]キー**と**[X]キー**を同時に押して処理を終了できません（ウィンドウズ95/98）。

●スキヤンディスクを実行しないようにするには

スキヤンディスクはウィンドウズが異常終了した後、起動し

たときに実行されます。したがって、「スタート」メニュー↓「シャットダウン」↓「Windowsの終了」を順に選択して、ウィンドウズを正常終了するようにしましょう。

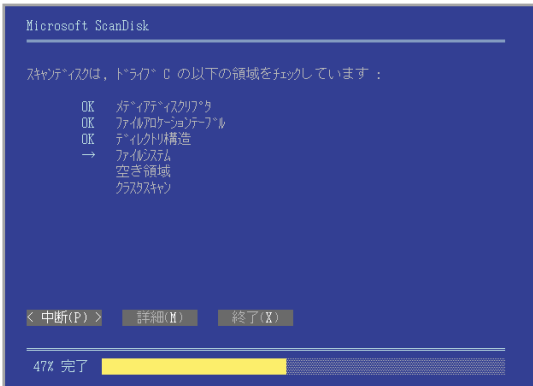
●スキヤンディスクを実行したいときは

ウィンドウズが正常に動作しているときでも、スキヤンディスクを実行したいことがあります。そのようなときは、ハードディスクのエラーチェックツールを利用しましょう。

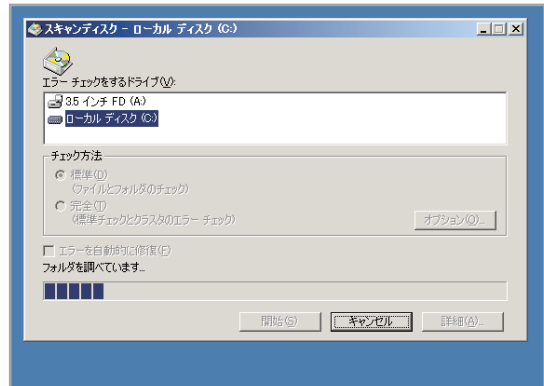
ハードディスクを新しく取り付けたときや、ファイルの読み書きの調子がどうもおかしいといったときに利用すると効果的です。

👉 スキャンディスク

2 ウィンドウズ95/98のスクランディスク。

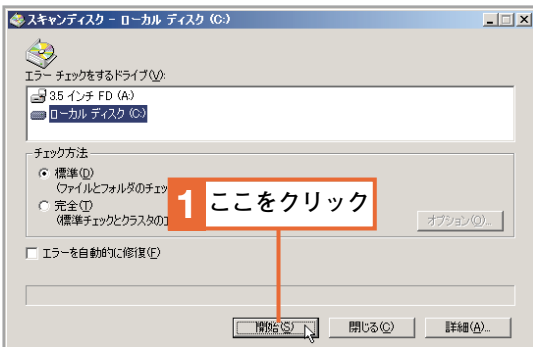


1 スキャンディスクの実行中の画面です。

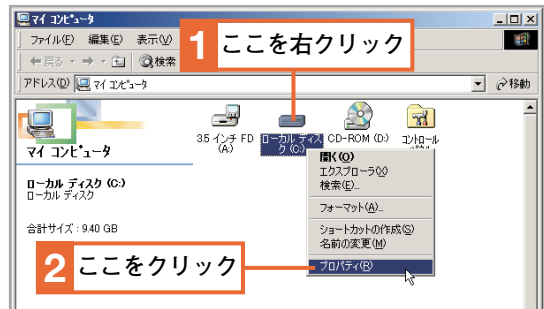


👉 エラーチェックを起動する

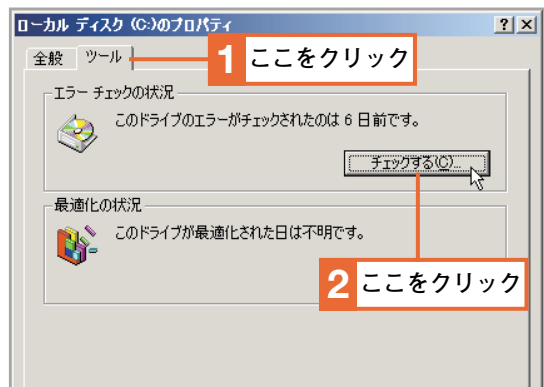
3 [開始] ボタンをクリックします。これで、エラーチェックツールが実行されます。



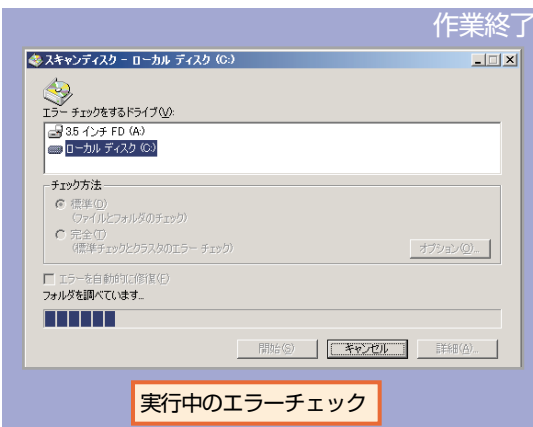
1 [マイコンピュータ] でスクランディスクを実行したいハードディスク (ドライブ) を右クリックして、ショートカットメニューで [プロパティ] を選択します。



2 [ツール] タブを選択し、[エラーチェック] をクリックします。



作業終了



3

CD-ROMドライブからCD-ROMが取り出せない。 ●CD-ROMの故障？

●CD-ROMの取り出し方法

CD-ROMを取り出すには、^{シイター}CD-ROMを右クリックして、シイターメニューから「取り出し」を選択する方法です。いちいち、右クリックして…、という方法が面倒なときは、直接CD-ROMドライブの開閉ボタンを押してもかまいません。

このほかにも、対応しているアプリケーション（^{シイター}CD-R書き込みアプリケーションや音楽CD再生アプリケーション）を使って取り出すこともできます。

また、CD-ROMだけではなく、^{ディフター}DVD-ROMやMOなども、シイターメニューから「取り出し」を選択する方法や、直接CD-ROMドライブの開閉ボタンを押す方法が利用できます。

●それでも取り出せないときは…

今までに説明した方法で取り出せないときは、少々強引な方法を利用することになります。CD-ROMドライブの正面には、針の穴ほどの小さな穴が開いています。この穴に、細い針金を差し込むことで、CD-ROMを強制的に取り出すことができます。

この針金は、CD-ROMを

購入したときに付属品として同梱されていますので、なくさないようにしましょう。

●CD-Rのロック

CD-Rに書き込むアプリケーションで、まさに書き込みを行っているときは、CD-Rを

取り出すことができません。これは、アプリケーションがCD-Rドライブをロックしているためです。CD-Rへの書き込みが終了し、CD-Rドライブのロックが解除されてから取り出しましょう。

CD-ROM、CDD-R、CDD-RWの違い

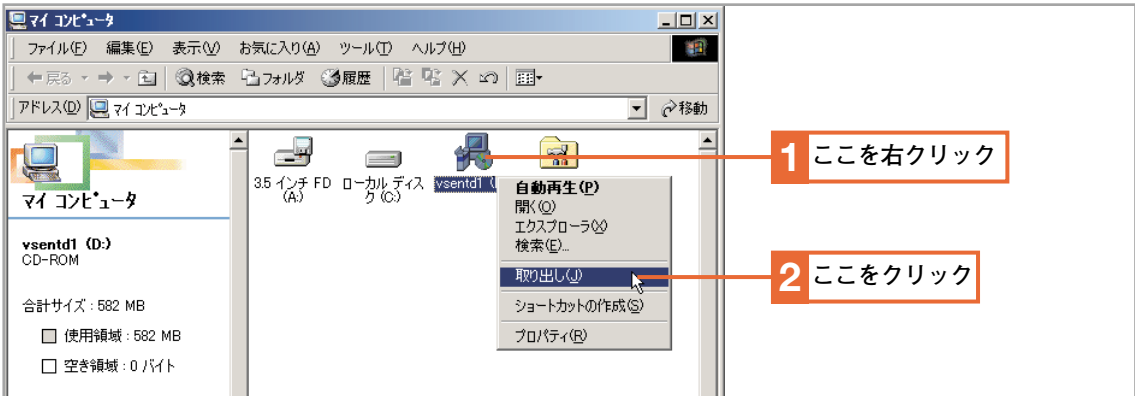
どれも同じく「CD」という文字が付きますが、その機能は大きく異なっています。CD-ROMは、ほとんどのパソコンに搭載されているドライブです。音楽CDと同じメディアを利用し、640MB程度の大容量を扱えます。ROM (Read Only Memory) 読み専用メモリ」という名前のとおり、書き込みはできません。

これに対して、書き込みができ

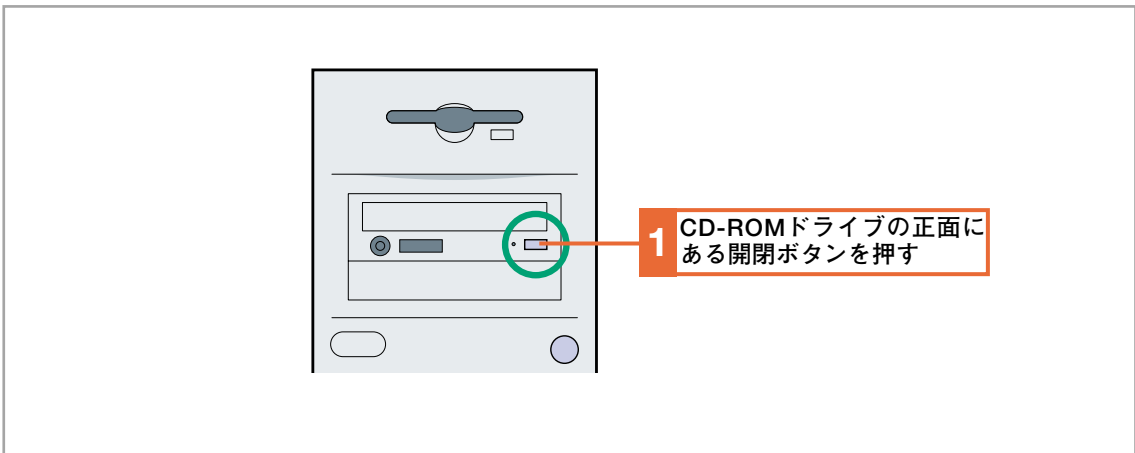
るのがCD-RとCD-RWです。CD-Rは、専用のアプリケーションを利用してCDに書き込みを行います。CD-Rメディアは、1回書き込みを行うとそれ以降は修正をすることができません。CD-RWは、何度でも書き込みを繰り返すことができますが、読み取るためには専用のアプリケーションが必要になります。

ヒント

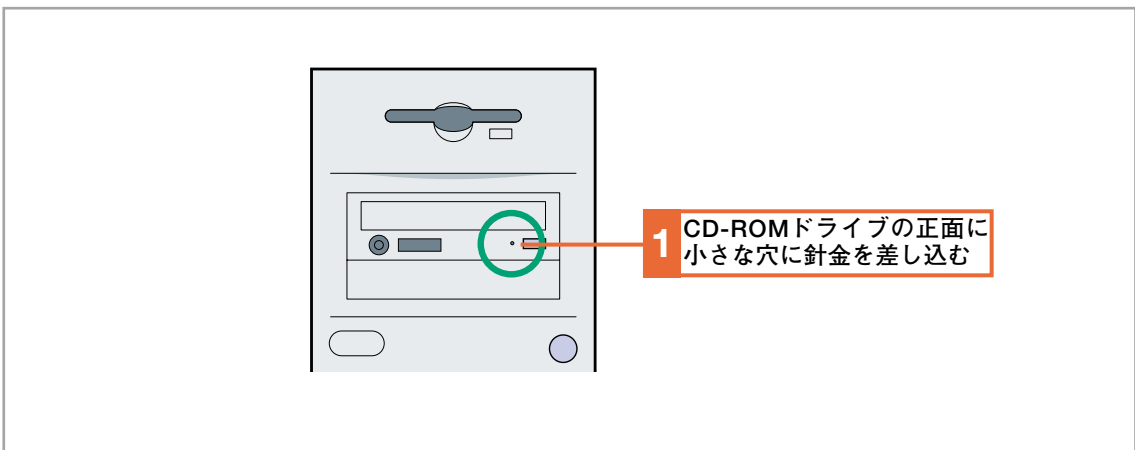
CD-ROMの取り出し方法 その1



CD-ROMの取り出し方法 その2



CD-ROMの強制的な取り出し



4

メモリの容量が足りない。 ●メモリの増設

●メモリとは

メモリとは、アプリケーションやデータなどを記憶する装置です。いくつか種類があります。ここでは、「主記憶（メインメモリ）」について取り上げます。アプリケーションが作業を行うとき利用する、一時的なデータ領域で、電源をオフにするたびに内容が削除されます。

パソコンは、CPU（中央演算装置）で計算処理を行います。が、たとえば、メモリは計算用紙ということになるでしょう。計算用紙が多いほど、処理速度が向上します。いくらCPUが速くても、メモリが少なければ処理は遅くなります。

●現在の状態を確認

増設する前に、あらかじめ現在のメモリ容量を確認しておきましょう。使用しているアプリケーションなどによって、必要な容量は変わりますが、ウィンドウズ95/98では60MB程度、ウィンドウズMeやウィンドウズ2000では、128MB程度を目安にすればよいでしょう。同時にたくさんアプリケーションを起動したり、画像処理などメモリを大量に使用するアプリケーションを利用するときは、この限りではありません。

●対応しているメモリ

メモリには、SIMM、DIMM

MM、RIMMなどの種類があります。最近のパソコンで一般的なのはDIMMですが、対応している種類でないと利用できません。また、マニュアルを参照して、空きスロットがあるかどうか、搭載できるメモリ容量

が限界を越えていないかどうかを確認しておきましょう。パソコンメーカーのウェブサイトで、メモリメーカーのウェブサイトで確認することができます。

●メモリを増設する

まず、パソコンの電源を切り、接続されているすべてのコードを外します。パソコンの裏側にネジがあるので、それを外して

ケースを開きます。ケースの種類によっては、ドライバーが必要なものや必要のないもの、ネジの数もさまざまなので、マニュアルを確認してください。

●静電気に気を付ける

メモリは、とてもデリケートな機器で、静電気に非常に弱い性質を持っています。静電気によってメモリが壊れてしまうこともあるので、メモリを扱う前に必ず金属に触れるなどして、静電気を体から逃がすようにしてください。静電気防止グッズを利用するのもよいでしょう。

●メモリを装着

DIMMメモリスロットに

は、左右にストッパーがあります。メモリを差し込む前に、このストッパーを開きます。マザーボード上には、多くのキーブールやICチップなどがあり、下手に触ると故障の原因になりかねませんので、作業は慎重に行いましょう。

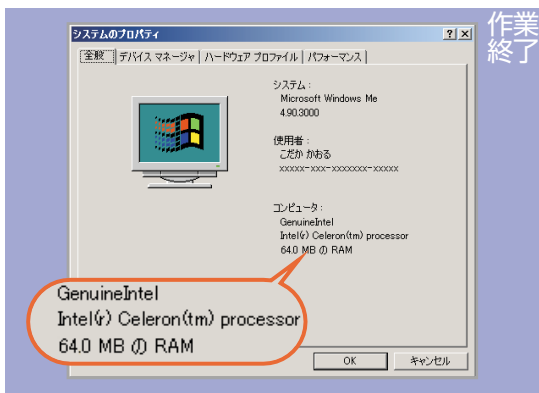
ストッパーを外したら、メモリの左右を確かめて、メモリスロットに差し込みます。メモリの下部に「切り欠き」がありますので、これをメモリスロットに合わせるようにします。

入りづらいときもありますので、ゆっくり徐々に力を入れながら差し込みます。このとき、無理に力を入れないように気を付けてください。

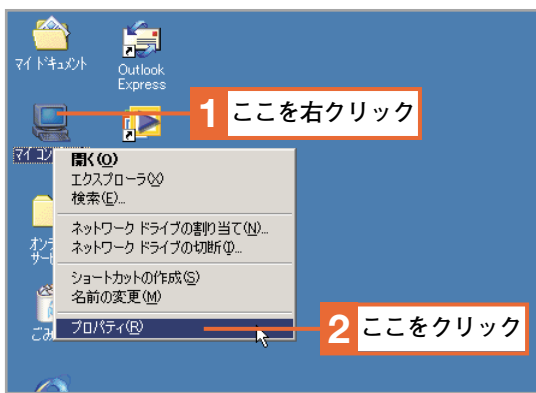
無事、メモリが差し込めたら、ストッパーを元に戻します。ストッパーがきちんと戻せないときは、メモリが完全に刺さっていないということですので。あらためて、差し込み直しましょう。

👉 現在のメモリ容量を確認する

2 [システムのプロパティ] ダイアログボックスが表示され、[全般] タブにシステムの状態が表示されます。

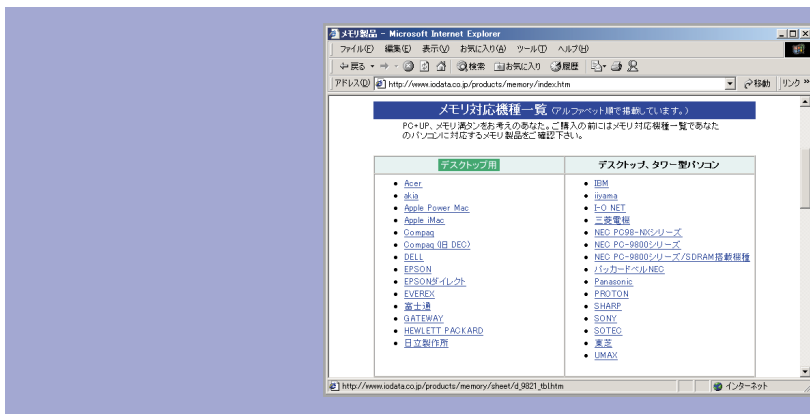


1 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、ショートカットメニューから「プロパティ」を選択します。

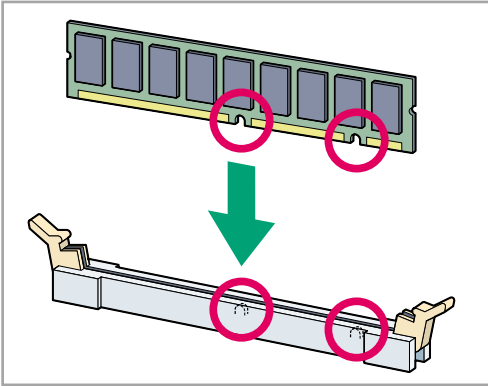


👉 対応しているメモリを調べる

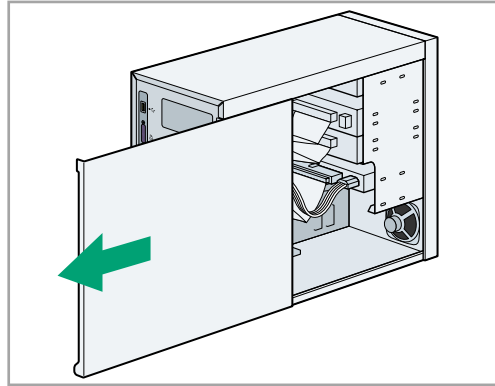
1 パソコンメーカーやメモリメーカーのウェブサイトでも、使用しているコンピュータに対応しているメモリを調べることができます。



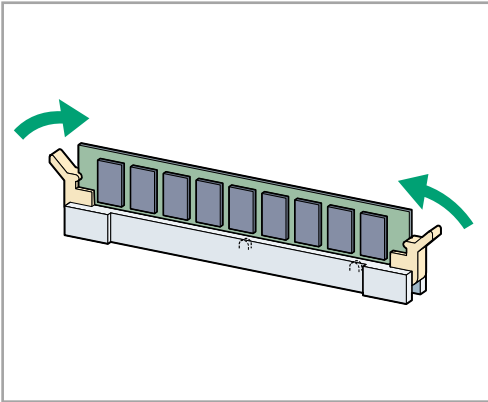
4 メモリの切り欠きをメモリスロットに合わせるようにします。



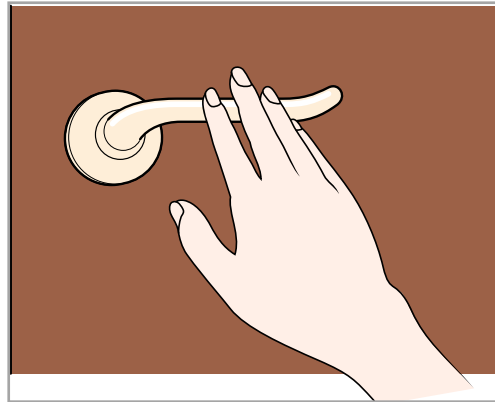
1 コンピュータのケースを開きます。



5 メモリを差し込みます。きちんと差し込めたら、ストッパーを元に戻します。

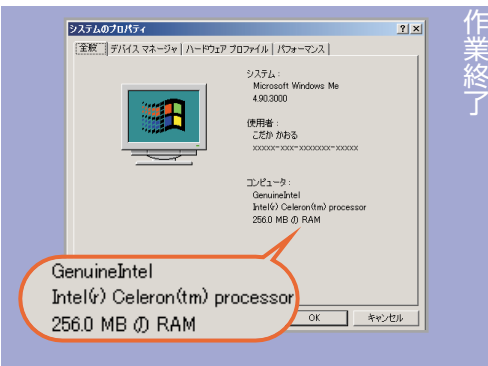


2 金属にさわって静電気を体から逃がします。

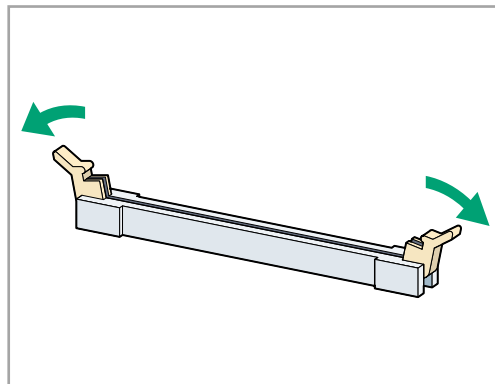


前のページから

6 メモリが増設されたことを確認します。[マイコンピュータ] を右クリックし、メニューから [プロファイル] を選択し、[全般] タブを表示します。



3 コンピュータ内部でメモリの装着スロットを探し、ストッパーを外します。



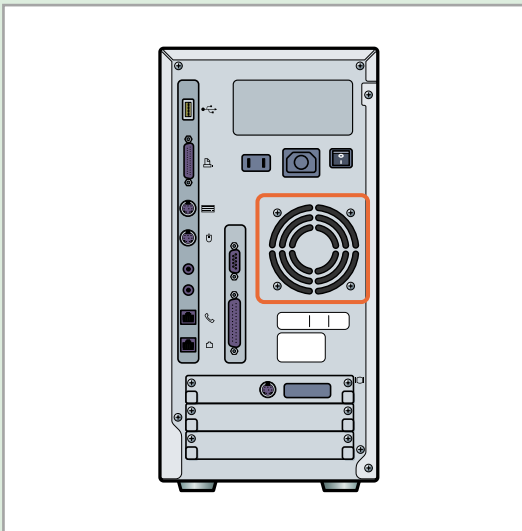
ヒント

パソコンのメンテナンス

パソコンも使っているうちに汚れてきます。ただ汚れるだけならよいのですが、場合によってはその汚れがもとで、故障の原因となってしまうこともあります。このようなことを防ぐためにも、定期的に掃除やメンテナンスをするようにしましょう。

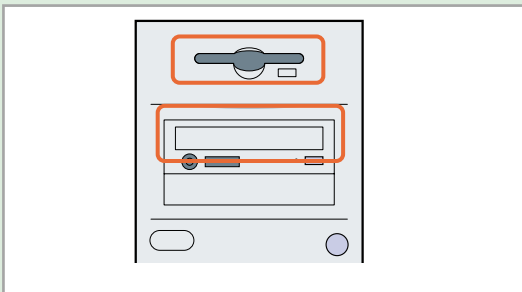
・給排気口

パソコンは、かなりの熱を発生します。そのため、ファンを使って風を取り入れて、熱を冷やしています。この給気口には、すぐにホコリがたまりやすくなります。ホコリがたまってきたときは、小さな掃除機などで吸い取るようにしましょう。ホコリがたまり過ぎると、パソコンが適切に冷やされなくなるため、熱暴走の原因になります。



・FDやCD-ROMの挿入口

給排気口と同じように、FDやCD-ROMの挿入口にもよくホコリがたまりやすくなります。あまりホコリがたまると、メディアを読み取れなくなったり、CDトレイが開かなくなったりします。こちらも、小さな掃除機などを利用して掃除します。

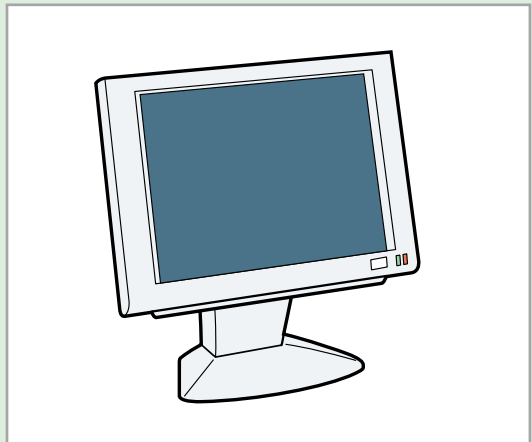


・水に気をつける

パソコンが苦手なものといえば、「水」です。電気製品ですので、水がかかるとショートする原因になります。キーボードやマウスなどは、特に水がかかりやすいので(ジュースなどをこぼさないように)気をつけましょう。パソコンを掃除するときは、できるだけよく絞った雑巾でふくようにします。また、クリーナーなどは直接吹きかけず、いったん雑巾に染み込ませてから使うようにしましょう。

・モニタ

ディスプレイも、掃除をしないと汚れが付着して見づらくなります。家庭用洗剤や専用クリーナーなどを利用して、画面をきれいにしておきましょう。液晶モニタに関しては、注意が必要です。液晶は非常にデリケートなため、やわらかい布を利用して拭くようにします。ティッシュペーパーなどで拭くと、傷がつく場合があります。できれば、専用のクリーナーを利用したほうがよいでしょう。



ハードディスクの容量が足りない。

●ハードディスクの増設

●ハードディスクとは

メモリが一時的な記憶装置であるのに対し、ハードディスク（HDD・固定ディスク）は、永続的な性質を持っています。つまり、パソコンの電源をオフにしても、データが消えることはありません。

●現在の状態を確認

ハードディスクを増設する前に、あらかじめ現在のハードディスク容量と空き容量を確認しておきましょう。空き容量が十分なときは、わざわざ増設する必要はありません。画像や音楽、動画ファイルなどを作成するのであれば、大きめのハードディ

スクを用意した方がよいでしょう。

●対応しているハードディスク

ハードディスクには、大きく分けてIDEとSCSIの2種類があります。サーバーやワークステーションなどを除き、一般的なパソコンにはIDEのハードディスクが搭載されています。IDEの中でも、細かい分類がありますが、特に気にする必要はありません。パソコンにあった種類のハードディスクを選びましょう。ここでは、IDEのハードディスクの増設方法を説明します。

一般的には、マザーボードに4つのIDE機器が接続でき、

ほとんどのパソコンでは、ハードディスク1つと、CD-ROM/DVD-ROMが1つ接続されています。パソコンによつては、IDEの空きがなかったり、省スペースパソコンではハードディスクを増設するスペースがないこともあります。パソコンのマニュアルなどで、必ず確認しておきましょう。

●ハードディスクの増設

IDEは4つの機器が接続できると説明しましたが、これは、次のようになっていくからです。IDEには、プライマリとセカンダリという2つのコネクタがあり、それぞれ、マスタとスレーブがあります。一般的に

は、プライマリのマスタにハードディスク、セカンダリのマスタにCD-ROM/DVD-ROMが接続されています。増設ハードディスクは、プライマリ、あるいはセカンダリのスレーブになります。

ハードディスクを取り付ける前に、デイツップスイッチを設定します。デイツップスイッチには、マスタ、スレーブ、シングル、オートセレクトの4種類がありますが、増設するときは、一般的にはスレーブに設定します。

ケースを開き、35インチベイにハードディスクを取り付けます。35インチベイのどこに取り付けるかは、IDEケーブルと電源ケーブルの取り回しを考え

ヒント

ハードディスクの容量

「10GB」と書かれているハードディスクを取り付けたにもかかわらず、プロパティで見ると「9.40GB」と表示されます。これは、別にハードディスクが不良品というわけではありません。1024バイトで1K（キロ）バイトと決められていますが、ハードディスクでは1000バイトを1Kバイトとしています。そのため、10GBのハードディスクは、正確に計算して「9.40GB」と表示されるわけです。

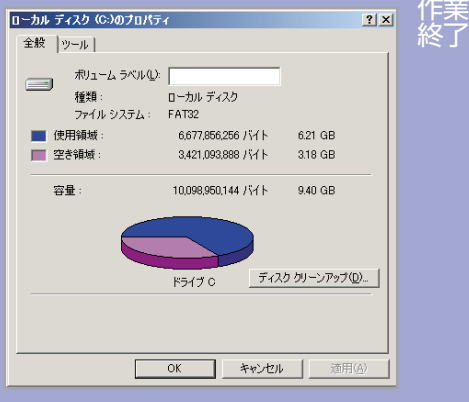
ながら調整します。IDEケーブルの上下を間違えないように気を付けましょう。コネクタ中央部分の切り欠きを合わせれば間違いありません。

無事装着が終わったら、ケースを閉じて電源を入れ直します。BIOSの画面、または、エクスプローラに表示されたら、ハードディスクの増設は成功です。後は、使う前にフォーマットしておきましょう。

現在のハードディスクの容量を確認する

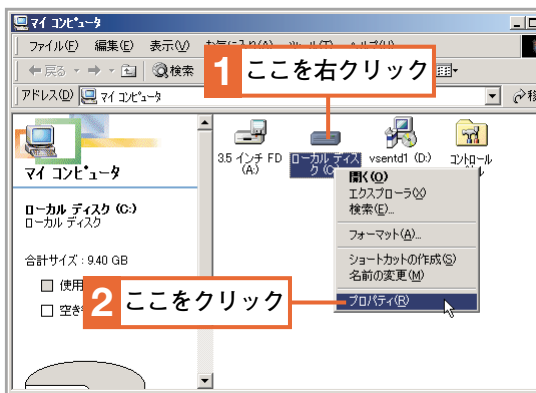
2

「ローカルディスクのプロパティ」ダイアログボックスが表示され、[全般] タブにハードディスクの状態が表示されます。



1

「マイコンピュータ」内のハードディスクのアイコンを右クリックし、ショートカットメニューから「プロパティ」を選択します。



対応しているハードディスクを調べる

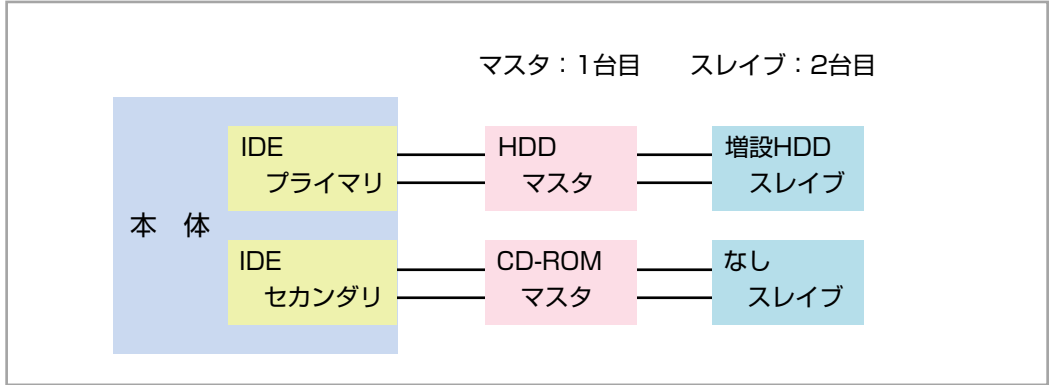
1

パソコンメーカーやハードディスクメーカーのウェブサイトでも、使用しているコンピュータに対応しているハードディスクを調べることができます。

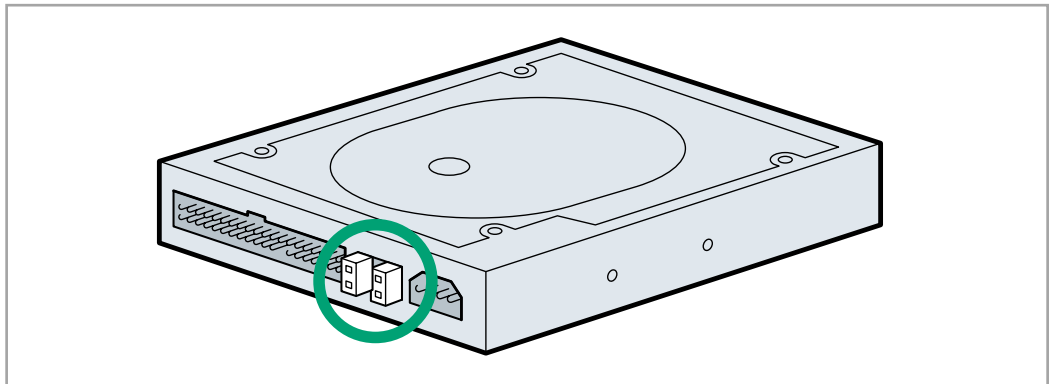


👉 ハードディスクを増設する

1 マスタとスレイベ。

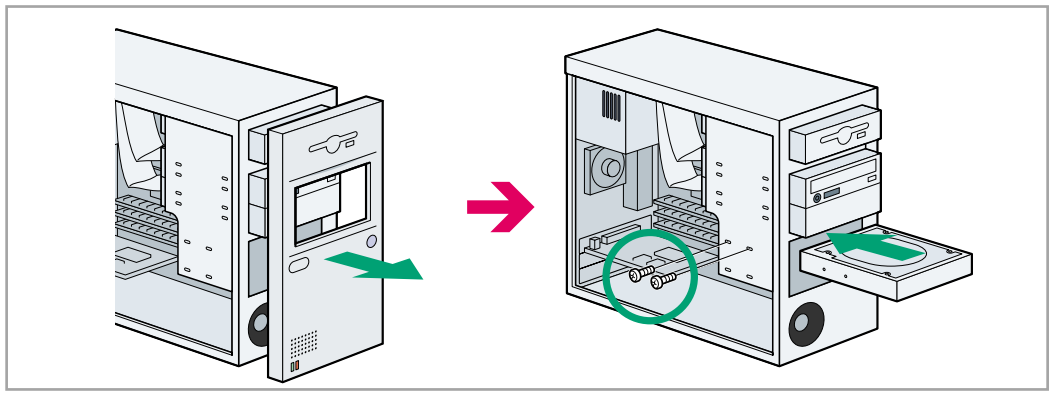


2 ディップスイッチを設定します。詳しい設定は、ハードディスクのマニュアルを参照してください。

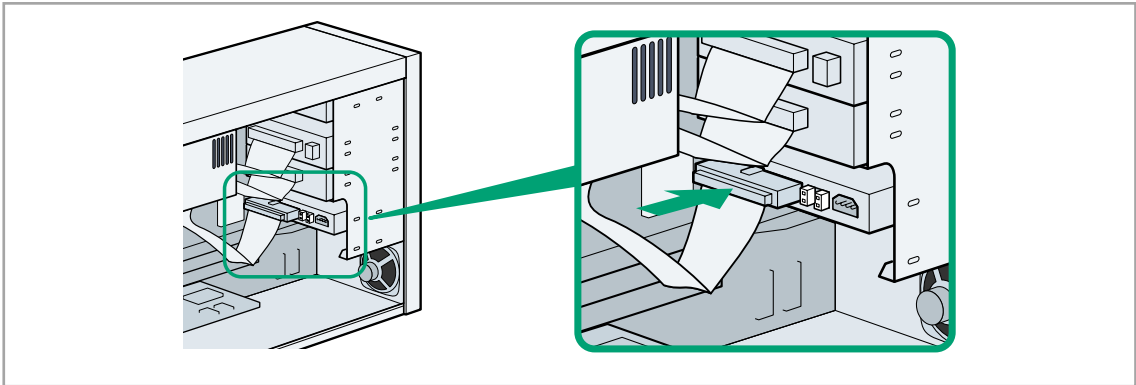


前のページから

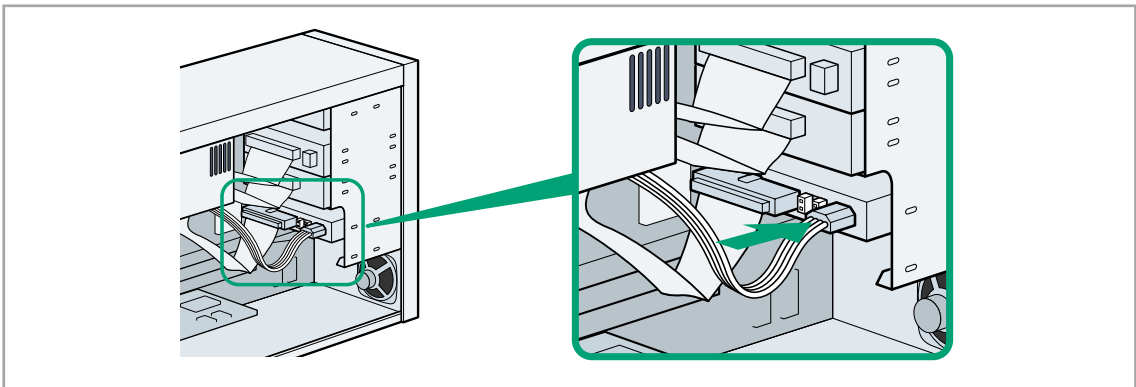
3 3.5インチベイに取り付けます。反対側のネジも忘れずに取り付けましょう。



4 IDEケーブルを接続します。切り欠きを確認して、上下を間違えないようにします。

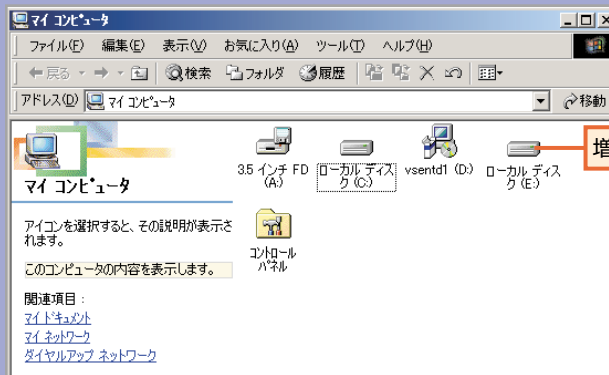


5 電源ケーブルを接続します。



6 ハードディスクが増設されたことを確認します。新しく追加されたドライブを右クリックし、ショートカットメニューの【プロパティ】をクリックし、【全般】タブを表示します。

作業終了



6

● 休止状態が使えない。 ● 休止状態、スタンバイの設定

● 休止状態とは

「休止状態」とは、パソコンを利用していないときにディスプレイとハードディスクの電源を自動的に切断し、電気を節約するモードのことです。パソコンの電源がシャットダウンされるため、電気を消費することがありません。このとき、現在の作業内容、すなわちメモリの内容がハードディスクに書き込まれます。休止状態から復帰するときは、メモリの内容を再び読み込む必要がありますので、少々時間がかかります。いわゆる、ノートパソコンの「ハイバネーション」と同じ機能です。

● スタンバイとは

「スタンバイ」は、休止状態とは異なり、メモリの内容がハードディスクに書き込まれることはありません。そのため、パソコンの電気は完全には切断されません。少ないながらも電気を消費します。また、メモリの内容が保存されないため、パソコンの電源にトラブルがあったときに、情報が失われることがあります。

● スタンバイ、休止状態にするには

スタンバイ、休止状態にするには、パソコンに触らずにしばらく置いておくか、「スタート

メニュー

→ [Windowsの終了]

を順に選択し、「スタンバイ」あるいは「休止状態」を選択します。

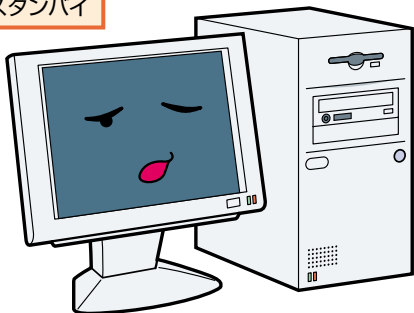
● 休止状態が使えない

「Windowsの終了」に、休止状態が表示されないときは、「コントロールパネル」で「電源の管理」を開き、「休止状態」タブを選択します。「電源の管理」のプロパティで、「休止状態をサポートする」にチェックを付けて、休止状態を利用できるようにします。

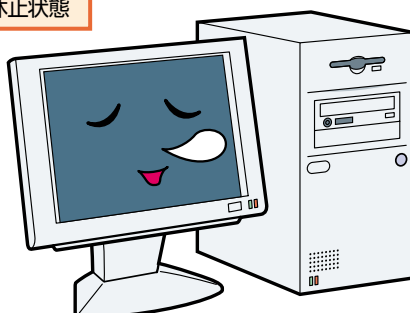
なお、古いパソコンなどでは、休止状態が利用できないものもあります。

スタンバイと休止状態

スタンバイ

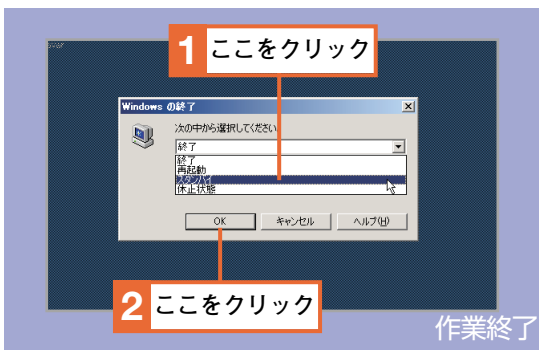


休止状態

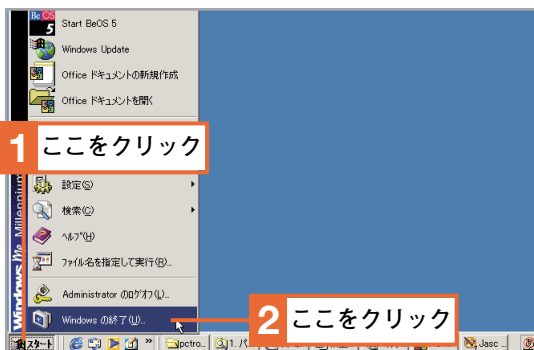


[Windowsの終了] でスタンバイまたは休止状態にする

2 [Windowsの終了] ダイアログボックスで [スタンバイ] を選択し、[OK] をクリックします。

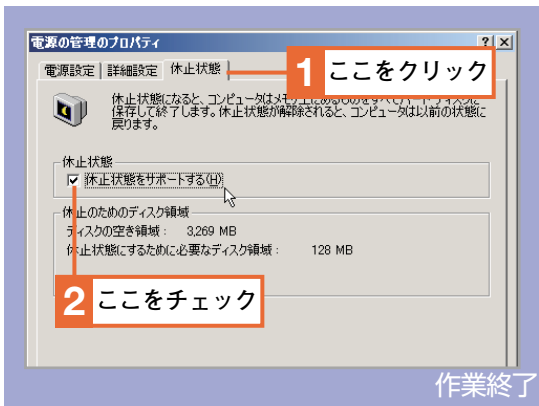


1 [スタート] ボタンをクリックし、[Windowsの終了] をクリックします。



休止状態を設定する

2 [電源の管理のプロパティ] で [休止状態] タブを選択し、[休止状態をサポートする] にチェックを付けます。



1 [スタート] メニュー→ [設定] → [コントロールパネル] を順に選択し、[電源の管理] をダブルクリックして開きます。



勝手に電源が切れる。

●電源関係のトラブル

●勝手に電源が切れる

何もしていないのに、勝手に電源が切れたり再起動したりするのは、電源周りのトラブルが原因であることがほとんどです。パソコンに接続している電源ケーブルがタコ足配線になっていたりとすると、安定した電気が送られずに、勝手に電源が切れてしまうのです。

タコ足配線をやめ、コンセントから直接電源ケーブルをつなぐようにしましょう。また、やむをえずタコ足にするときは、パソコン用の大容量タイプのものを選ぶようにしましょう。このほか、無停電電源装置（UPS）^{ユピーエス}を利用するのも効果的です。

●クロックアップ

電源以外の理由としては、「クロックアップ」があります。ゲームや計算処理などのCPUに負担がかかる処理を行っているときに、突然電源が切れるようなときは、クロックアップが原因である可能性もあります。メーカー製のパソコンでは、クロックアップができない種類が多いのですが、パーツを購入して組み立てるようなパソコンでは、クロックアップが自由にできるものもあります。

●クロックアップとは

クロックアップとは、CPUの周波数を変更し、処理能力を

高めることを言います。特にお金をかけずに、速いCPUに買い換えたのと同じ効果を得ることができるため、ヘビーユーザーなどが好んでクロックアップしたりすることもあります。うまく利用すると、とても効果的ですが、パソコンの内部に詳しくないと、いろいろと問題が発生することも多いと言われています。知識としてとどめておくだけでよいでしょう。

●無停電電源装置

無停電電源装置とは、停電になったとき、または電気の流れが弱くなったり強くなったりしたときにも、安定した電気を流すための装置です。無停電電源

装置にはバッテリーが内蔵されているため、パソコンの電源ケーブルを断つたときも安心です。バッテリーを内蔵しているとはいつても、何時間そのまま電気を供給できるわけではありません。一般的には、電気が流れてこなくなったら、パソコンをシャットダウンするようにします。

無停電電源装置には、パソコンと電源ケーブルとは異なるケーブルをつないで、停電時などにパソコンを自動的にシャットダウンする機能を持つものもあります。会社などで使うサーバーマシンには、重要なデータが保存されているので、データの

ヒント

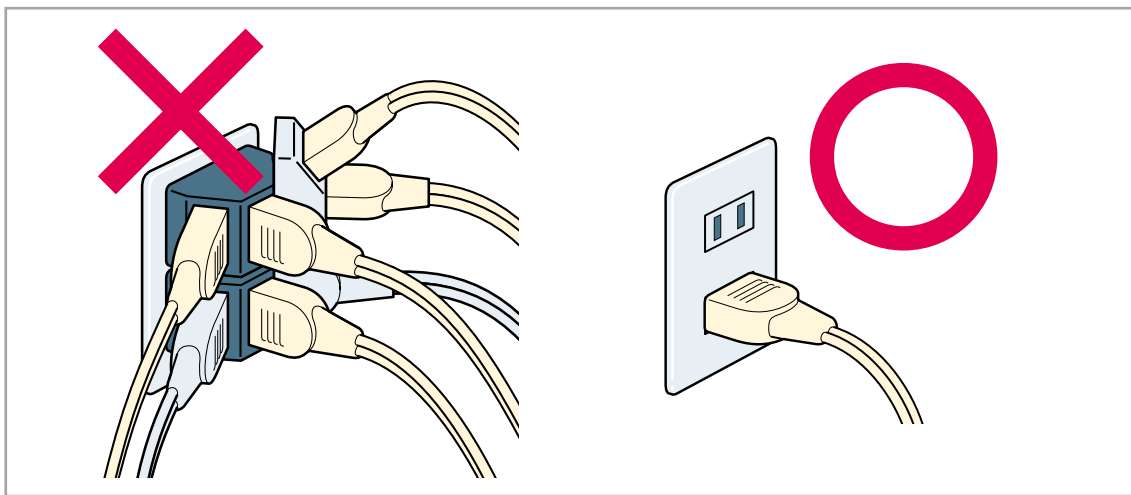
雷に注意

パソコンは、電源やモデムなどで家の外の電線とつながっています。雷が落ちたときに、これらの電線を伝ってパソコンに非常に高い電圧がかかることがあります。瞬間的に強力な電気が流れると、パソコンの部品が壊れたり、最悪の場合火事の原因になることさえあります。

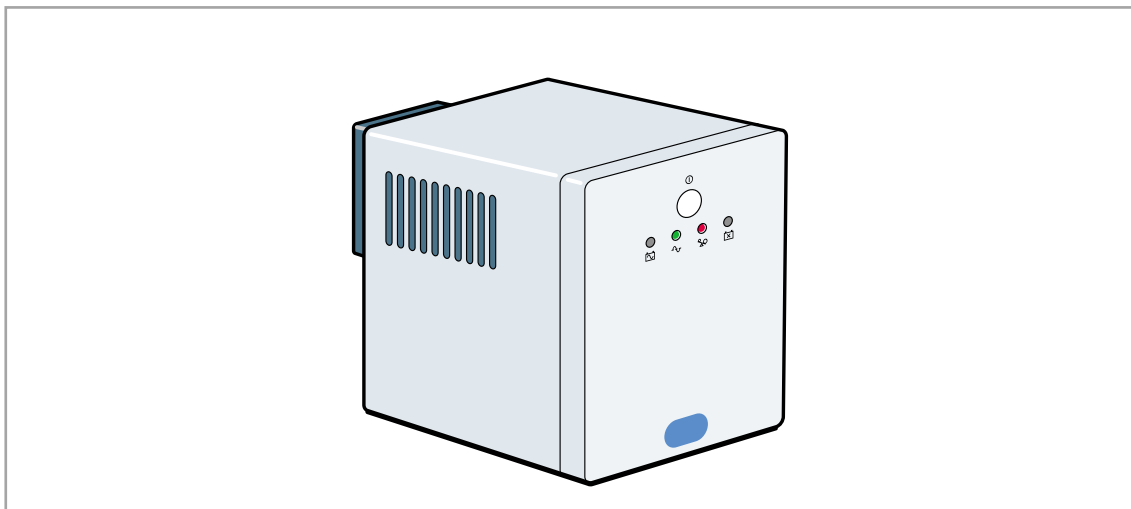
雷が発生しやすい地域に住んでいるのであれば、雷による停電に備えておいたほうがよいでしょう。また、雷をガードする製品も販売されていますので、購入を検討したほうがよいかもしれません。

消失を防ぐためにも、これらの無停電電源装置が接続されているのです。

👉 電源ケーブルを適切に接続する



👉 無停電電源装置



8

それでも動かない。 ●問い合わせの前にできること

●現在の状況、問題点を確認する

ひとくちに「パソコンが立ち上がらない」といってもいろいろな理由が考えられます。このようなときは、順番に状況を確認し、問題となっている箇所を見つけてすようにしましょう。

たとえば、「パソコンが立ち上がらない」ときは、まず電源ケーブルがきちんと接続されているかどうか、ケーブルが接続されているのならパソコンに電源が届いているのか、といったことを確認します。

●解決策を調べる

問題点が見つかったら、どのようにして解決するかを調べま

す。ウィンドウズが起動しているときは、まずヘルプを使って調べてみましょう。他にも、インターネットのウェブサイトを利用したり、書籍なども参考にあります。

●解決策を試してみる

解決策が見つかったら、その方法を試してみましょう。トラブルは、できるだけ自分で対処することで、パソコンに対する知識も増えていきます。しかし、すぐに試してはいけません。その解決策によって、パソコンの設定を変えてしまうようなときは、あらかじめ元に戻せるように重要なファイルをバックアップしておくべきです。バックアップ

とは、ファイルのコピーをMOやフロッピーディスクなどに保存しておくことです。また、どのような変更を行うのか、しっかりとメモしておきましょう。万一、何らかの問題が発生した場合でも、ファイルのバックアップとメモがあれば、いつでも元の状態に戻すことができます。

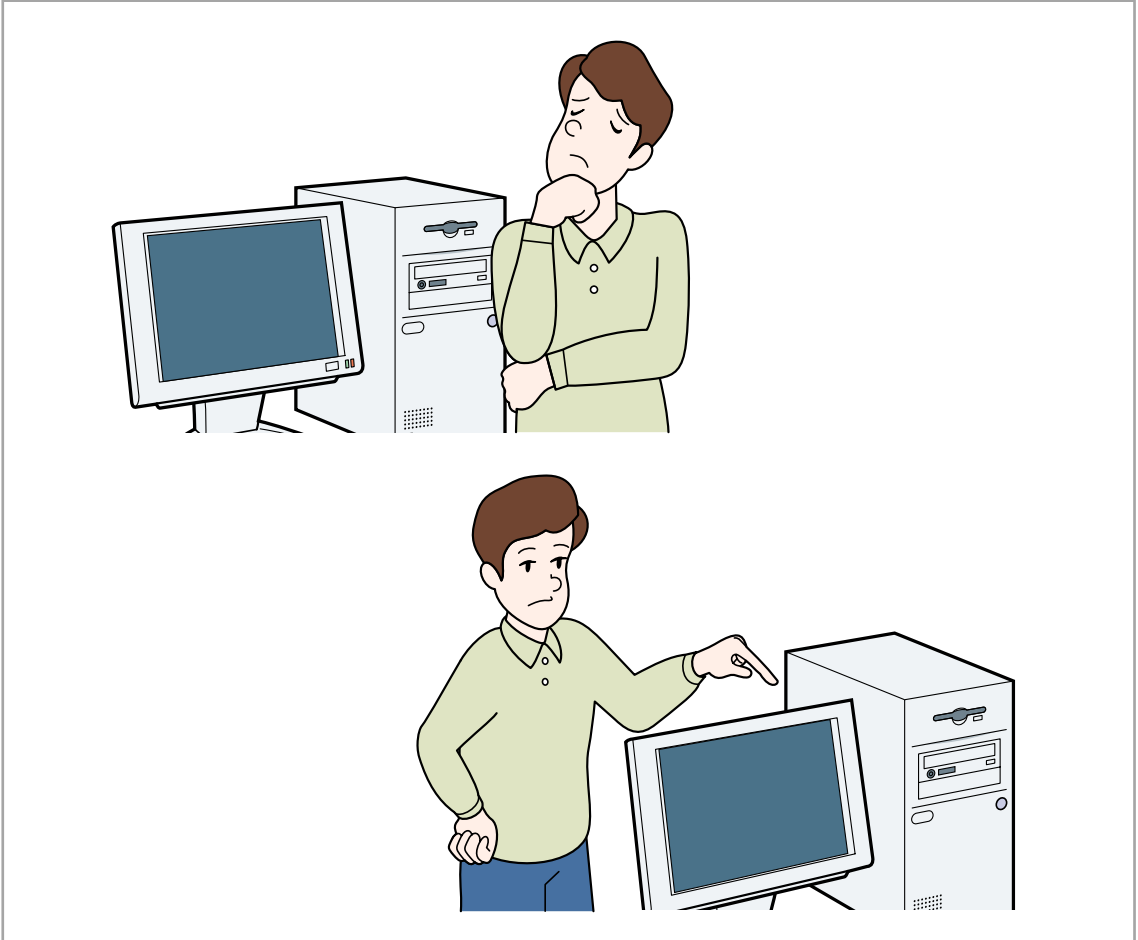
●サポートに問い合わせる

いろいろ試してみてもうまくいかないときは、パソコンに詳しい周りの人やパソコンメーカー、アプリケーションメーカーのサポートに問い合わせるしかありません。最近では、24時間無料でサポートを行っているメーカーも多いので安心です。

問い合わせるときに気を付けなくてはならないのが、具体的に説明しないと、相手が理解できないということです。「現在は、〇〇という状況です」「昨日、〇〇してからおかしくなりました」「〇〇という原因ではないか」と思い、〇〇してみたが元に戻りません」といったように、具体的に、詳しく説明しましょう。

また、問い合わせを行う前に、機種名や型番、製造番号などを確認しておきましょう。問い合わせの際に、カスタマーIDアイディーなどのユーザー情報が必要になることもあります。これらの情報もあらかじめ用意しておき、すぐに答えられるようにしておきましょう。

👉 現在の状況を確認する

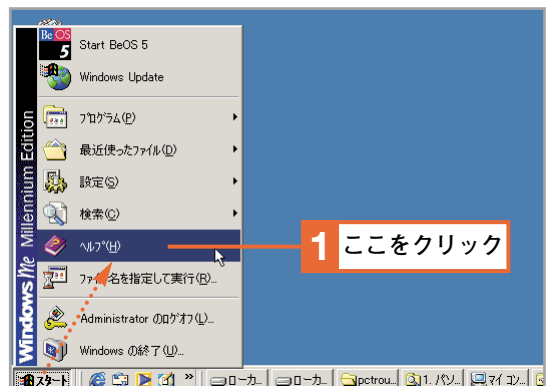


👉 ウィンドウズのヘルプを使って解決策を調べる

2 [Microsoftヘルプとサポート] が表示されるので、解決策を調べましょう。



1 [スタート] ボタンをクリックし、[ヘルプ] をクリックします。



👉 解決策を試す

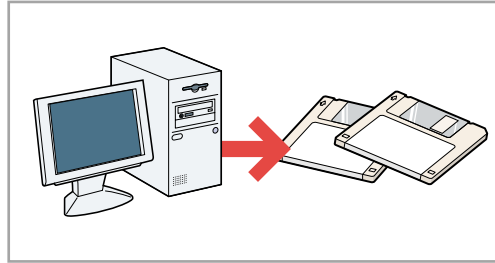
8

それでも動かない。
●問い合わせの前には必ず「JAN」

3 解決策を試します。



1 重要なファイルをバックアップしておきます。



2 変更前の設定をメモしておきます。



前のページから

👉 サポートに問い合わせる

1 いろいろ試してみてもうまくいかないときは、パソコンに詳しい周りの人やパソコンメーカー、アプリケーションメーカーのサポートに問い合わせましょう。

